

## 鹿児島県初記録のヨウジウオ科ウミヤッコ *Halicampus grayi*

太田竜平<sup>1</sup>・伊東正英<sup>2</sup>・本村浩之<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館 (水産学部)

<sup>2</sup> 〒 879-1301 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦 718

<sup>3</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

### はじめに

ヨウジウオ科 (Gasterosteiformes: Syngnathidae) は世界で 51 属約 196 種が知られており (Nelson, 2006), 日本近海には 21 属 54 種が分布する (瀬能, 2000; 鈴木ほか, 2002, 2003; 高田ほか, 2008). ウミヤッコ属 *Halicampus* はインド・太平洋域で 12 種が有効種として認められており (Dawson, 1985), そのうち, 日本からはホソウミヤッコ *H. bootthae* (Whitley, 1964), ヒメホソウミヤッコ *H. dunckeri* (Chabanaud, 1929), トラフウミヤッコ *H. nitidus* (Günther, 1901), ノコギリウミヤッコ *H. brocki* (Herald, 1953), ウミヤッコ *H. grayi* Kaup, 1856, ホシヨウジ *H. punctatus* (Kamohara, 1952), およびタツウミヤッコ *H. macrorhynchus* Bamber, 1940 の 7 種が知られている (瀬能, 2000). ウミヤッコはインド・西部太平洋域に分布し, 国内からはこれまでに駿河湾, 長崎県および琉球列島から報告されている (吉野ほか, 1975; 瀬能, 2000; 多紀ほか, 2005).

2007 年 3 月 17 日に鹿児島県南さつま市笠沙町貝浜で, ウミヤッコと同定される標本が 1 個体採集された. この標本は鹿児島県における本種の初記録となるため, ここに報告する.

Ohta, R., M. Ito and H. Motomura. 2010. First record of *Halicampus grayi* (Perciformes: Syngnathidae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 36: 57-59.

✉ HM: Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp).

### 材料と方法

計数・計測方法は Dawson (1985) に従った. 標準体長は体長と表記した. 計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った. ウミヤッコの生鮮時の体色の記載は, 固定前に撮影されたカラー写真に基づく. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM: Kagoshima University Museum) に保管されており, そのカラー写真は同館の画像データベースに登録されている.

### 結果と考察

#### *Halicampus grayi* Kaup, 1856

ウミヤッコ (図 1)

**標本** KAUM-I. 3244, 体長 67.4 mm (全長 69.7 mm), 鹿児島県南さつま市笠沙町貝浜 (31° 24'37"N, 130°11'32"E), 水深 0.5 m, 2007 年 3 月 17 日, タモ網, 伊東正英.

**記載** 背鰭軟条数 19; 胸鰭軟条数 18; 臀鰭軟条数 5; 尾鰭軟条数 10; 体輪数  $18 + 35 = 53$ ; 背鰭基底下の体輪数  $2.5 + 1 = 3.5$ . 体長に対する各部位の相対比 (%) を以下に示す. 全長 103.4%, 頭長 11.4%, 吻長 5.6%, 吻高 1.2%, 軀幹高 2.4%.

体は細長く, 吻は短い. 軀幹部と尾部の上隆起線・下隆起線はともに不連続. 軀幹部上隆起線は背鰭基底下の体輪上で隆起する. 軀幹部の下隆起線は最終軀幹輪で上方へ曲がる. 軀幹部中央隆起線は最終軀幹輪の 1 つ前より下方へ曲がる. 各隆起線は強い鋸歯状. 鰓蓋中央よりやや上方を鰓



図1. 鹿児島県から採集されたウミヤッコ *Halicampus grayi* の生鮮標本写真. KAUM-I. 3244, 標準体長 67.4 mm, 南さつま市笠沙町貝浜.

蓋下縁に平行して強い1隆起線が走り、その隆起線から10本の弱い隆起線が放射状に等間隔で鰓蓋下縁に向かって伸びる。

生鮮時の色彩(図1) — 体に茶褐色と白色の横帯が多数あり、各横帯は体を環状に囲むが、1本目の白色横帯は体上方から体側中央までである。白色横帯は、躯幹部に4本、尾部に10本の合計14本。1本目の白色横帯と鰓蓋の間の体側上方には白色斑がある。背鰭と臀鰭は透明。胸鰭は茶褐色がかかった透明。尾鰭は黄色がかかった褐色。吻は暗褐色で、先端が白色。背鰭基底部前方は白色で、躯幹部4本目の白色横帯と連続する。

固定後の色彩 — 吻の先端、体側の横帯、体前方の斑紋は淡黄色。その他は生鮮時と同様。

分布 アフリカのアデン湾、スリランカ沿岸、タイ、オーストラリアから日本にかけてのインド・西部太平洋の広域に分布する(Dawson, 1985)。国内では駿河湾(瀬能, 2000)、長崎県(塩垣・道津, 1973; Shinohara et al., 1998)、琉球列島(吉野ほか, 1975; 多紀ほか, 2005)および鹿児島県本土に分布する(本研究)。

備考 本標本は尾鰭と臀鰭があること、尾鰭が大きいこと、胸鰭が半円形であること、躯幹部と尾部の上下隆起線がともに不連続であること、背鰭基底下の体輪が盛り上がること、尾鰭を除く尾部が躯幹部よりも長いこと、吻が眼の後縁と胸鰭基底中央間の距離より短いこと、吻背面の中央隆起線が凹状でないこと、尾鰭が10軟条であること、躯幹輪数が18であることなどの特徴から、Dawson(1985)や瀬能(2000)の記載に一致し、ウミヤッコ *H. grayi* と同定された。

日本国内でウミヤッコはこれまでに駿河湾、長崎県、琉球列島からのみ報告されていた(吉野ほか, 1975; 瀬能, 2000; 多紀ほか, 2005)。

駿河湾からの報告は水中写真のみに基づいた

ものであり(瀬能, 2000)、駿河湾における本種および本種と考えられる個体の水中写真が、神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真資料データベース(KPM-NR)に登録されている(KPM-NR 26790, 40659-40660, 40676, 60777)。これらの画像のうち、KPM-NR 40659-40660(静岡県沼津市西浦大瀬, 1999年10月25日, 内山博之氏撮影)は背鰭基底下の体輪が盛り上がること、吻が眼の後縁と胸鰭基底中央間の距離より短いこと、頭部後方の鰓蓋上方が盛り上がることなどの特徴がよく確認でき、本研究でもウミヤッコ *H. grayi* と同定された。

Bleeker(1858)は、長崎県から採集された2標本に基づき *Syngnathus koilomatodon* を新種として記載し(Eschmeyer, 1998)、松原(1955)や塩垣・道津(1973)はウミヤッコを *H. koilomatodon* として報告したが、現在 *S. koilomatodon* は *H. grayi* の新参シノニムとされている(Dawson, 1985)。

吉野ほか(1975)は琉球列島から本種を報告したが、標本番号や標準体長など標本の詳細は記載されておらず、吉野ほか(1975)により琉球列島から報告された標本の所在は不明である。

現在、Bleeker(1858)により報告された長崎県産の本種の標本はロンドン自然史博物館(BMNH 1867.11.28.353)とライデン自然史博物館(RMNH 7226)に保管されている。しかし、本研究ではこれら2標本以外の日本産ウミヤッコ標本の所在を確認することが出来なかった。したがって、鹿児島県産の標本(KAUM-I. 3244)は長崎県から採集された2標本に次ぐ、日本で3個体目の標本である可能性が高い。

## ■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、標本の作製や登録などを手伝って下さった鹿児島大学総合研

究博物館ボランティアの原口百合子女史と高山真由美女史に厚くお礼申し上げる。本原稿に対し適切な助言を下された鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の松沼瑞樹氏、荻原豪太氏、目黒昌利氏、山下真弘氏、吉田朋弘氏に心より感謝する。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」と国立科学博物館の「黒潮プロジェクト（浅海性生物の時空間分布と巨大海流の関係を探る）」の一環として行われた。

## ■ 引用文献

- Dawson, C. E. 1985. Indo-Pacific pipefishes (Red Sea to the Americas). The Gulf Coast Res. Lab., Ocean Springs. 230 pp.
- Eschmeyer, W. N., ed. 1998. Catalog of fishes. Vol. 1. Introductory materials, species of fishes A-L. Calif. Acad. Sci., San Francisco. 958 pp.
- 松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索 I-III. 石崎書店, 東京. xi + v + 1605 pp., 135 pls.
- Nelson, J. S. 2006. Fishes of the world. 4th ed. John Wiley & Sons, Inc., New Jersey. xix + 601 pp.
- 瀬能 宏. 2000. ヨウジウオ科. 中坊徹次 (編), pp. 520-536, 1509-1515. 日本魚類検索. 全種の同定. 第2版. 東海大学出版会, 東京.
- Shinohara, G., K. Matsuura and S. Shirai. 1998. Fishes of Tachibana Bay, Nagasaki, Japan. Mem. Natn. Sci. Mus., Tokyo, (30): 105-138.
- 塩垣 優・道津喜衛. 1973. 長崎県野母崎町沿岸の魚類. 長崎大学水産学部研究報告書, (35): 11-39.
- 鈴木寿之・瀬能 宏・細川正富. 2002. 西表島で採集された日本初記録のカプトヨウジ (新称). I. O. P. Diving News, 13 (10): 4-6.
- 鈴木寿之・矢野維幾・瀬能 宏・吉野哲夫. 2003. 西表島から採集された日本初記録のヨウジウオ科の稀種チンヨウジウオ. I. O. P. Diving News, 14 (1): 2-5.
- 高田陽子・渋川浩一・篠原現人. 2008. ヨウジウオ科カスミオイランヨウジ (新称) *Dunckerocampus naia* の日本からの記録. 魚類学雑誌, 55 (2): 135-138.
- 多紀保彦・河野 博・坂本一男・細谷和海. 2005. 新訂原色魚類大圖鑑 (圖鑑編). 北隆館, 東京. 46 + 971 pp.
- 吉野哲夫・西島信昇・篠原士郎. 1975. 琉球列島産魚類目録. 琉球大学理工学部紀要 (理学部編), (20): 61-118.